

令和2年度 学校自己評価システムシート (県立上尾特別支援学校)

目指す学校像	キャリア教育を推進し、豊かに生きる力を育てる学校
--------	--------------------------

重点目標	1 個に応じた授業づくりとキャリア教育の視点を生かした教育課程の編成・実施による質の高い学校教育の充実 2 地域との連携とセンター的機能の充実 3 安心安全な学校づくりの推進 (危機管理、不祥事防止と教職員の働き方)
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	5名

学校自己評価						
年度目標				年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	【現状】 「主体的・対話的で深い学び」の視点・観点を取り入れた授業づくりにおける各学部の課題を共有した。 【課題】 「主体的・対話的で深い学び」の視点・観点を用いた本校の授業実践に積極的に取り組む必要がある。	「主体的・対話的で深い学び」の視点を活かした授業実践を行う。	①2年間の研究をもとに「主体的」「対話的」な活動の視点と「深い学び」の評価指標を策定する。(11月) ②学部毎に①の内容を反映した学習指導案を作成し、実践する。また報告会を開催し、成果と課題を共有する。(2月) <研究部と学部>	①「主体的」「対話的」な活動の視点と「深い学び」の評価指標を作成することができたか。 ②学習指導案を作成し授業実践することができたか。また、実践から成果と課題をまとめ、報告会で共有することができたか。	<予定通り進めることができた> ①「主体的・対話的で深い学び」についての研修会を計5回実施。3月に実践発表を予定している。 ②各学部で①の視点を反映した学習指導案を作成し授業実践することができた。また、研究協議で①の視点を再検討することができた。	A
	【現状】 自閉症についての理解や指導方法について学ぶ機運が高まってきた。 【課題】 自閉症理解と自閉症支援を基本として児童生徒への指導支援を十分に行うために、個に応じた教育活動の充実を図る必要がある。	自閉症支援の研修と実践を行う。	①特別非常勤講師と共に児童生徒の実態を見立て、成功体験を積重ねていく個に応じた具体的な指導支援を実践する。(7月～) <学部学年等> ②実践報告会等を通して、成果と課題を職員全体で共有し、課題解決から指導支援を改善する。(2月) <学部学年等>	①特別非常勤講師と共に児童生徒の見立てと個に応じた指導支援を実践することができたか。 ②実践報告会を開催し、成果と課題を職員全体で共有できたか。	<計画通りだったが整理は途中> ①特別非常勤講師との活動を計24回実施した。この実践は児童生徒の指導支援に大いに役立った。また教員の知的障害や自閉症についての理解が深まり、支援などの専門性向上にもつながった。 ②実践報告会等を3月に計画している。	B
2	【現状】 交流活動など、地域とのつながりを生かした学習活動を進めており成果が見られている。中学部で新たな校種と連携した取組を始めた。 【課題】 交流及び共同学習の内容について交流校との連携を深め、さらに充実させるとともに、地域とのつながりを深め活動を広げる必要がある。また、日本の国際化を見据え、他国の文化に触れ、理解する態度を育成する必要がある。	地域とのつながりや地域での活動を大切にした教育活動の充実及び国際化を見据えた教育活動を構築する。	①交流校との連携を十分に図り、交流及び共同学習を行う。(小2回、中2回、実施予定) <学部> ②地域で継続的に活動できる機会と活動場所を充実する。(6月～) <学部・進路指導部> ③大学等と連携し、外国人ボランティアを受け入れる。(12月) <中学部、高等部>	①予定した交流及び共同学習を実施し、児童生徒の意識や行動に変容が見られたか。または、次年度への連携が図れたか。 ②事業所見学など、地域の理解を得て活動する機会を実施し、児童生徒の意識や行動に変容が見られたか。 ③聖学院大学と連携し他国の文化に触れる授業が実践できたか。	<ICT機材等を利用して実施した> ①感染症拡大防止と予防から小学部では手紙や作品の交換、中学部ではオンラインで生徒間の交流、高等部では担当者間で来年度への打合せを実施した。 ②地域企業と連携を図り、高等部生徒が職業の授業で7/17,9/25に就業体験を行った。また、10月22日に高等部1年生の職場見学を実施することができた。 ③ALTボランティア(聖学院卒業生)と11月に中学部で異文化理解を主題の授業を実施した。	B
	【現状】 巡回相談を着実にっており、地域からの信頼も深まっている。また、校内でのケース会の必要性も高い。 【課題】 外部機関との連携及び校内外の支援をより進める必要がある。	校内外支援体制を充実する。	①巡回相談やケース会等の実施と校内外支援の情報共有並びに個々の課題への対応を行う。(通年) <支援部・校内支援委員会>	①近隣諸学校並びに校内において、質・量ともに適切な支援と情報の共有ができたか。(相談件数は目標250件、外部機関連携の在校生支援会議等を必要に応じ適切に開催)	<関係機関との信頼が深まった> ①感染症対策を徹底しながら163件の巡回相談を行った。特に実効性の高い支援方法について発信することができ、巡回相談実施校との信頼関係を深めることができた。	B
3	【現状】 ヒヤリハット情報共有等の緊急時に向けた取組と防災への危機対応について整備をしている。 【課題】 ヒヤリハットの情報共有と危機管理マニュアルの再整備を通して、危機管理意識の向上を図る必要がある。	危機管理マニュアルの再整備と緊急時対応への意識啓発を実施する。	①ヒヤリハット報告書を活用し、情報共有、提供を行う。 ②危機管理マニュアルの変更が必要な箇所を整備するとともに避難訓練等を実施する。 ③ICT機材等の管理を徹底する。 <保健部・防災管理部・情報教育部>	①次に生きるヒヤリハットの周知が十分できたか。 ②危機管理マニュアルを現状に合わせて変えることができたか。 ③ICT機材等の日常点検、更に視聴覚教材点検を実施することができたか。	<来年度も進めていく> ①事故報告を含め12件の報告があった。今後もヒヤリハットの意義を周知する。 ②防災管理部を中心にマニュアル改定が終わった。今後、職員向けの研修を行い周知徹底していく。 ③情報教育部を中心に機材管理が改善されてきた。	A
	【現状】 勤務時間以外にも仕事をしている教職員が多い。また、教職員の不祥事が起こらないように研修を行っている。 【課題】 教職員の働き方改革の意識付け並びに不祥事防止への意識向上を徹底する必要がある。	働き方改革の意識の醸成と不祥事防止の注意喚起を行う。	①中・長期的な視点での仕事の削減、学校閉庁日の設定(8月)、ふれあいデーの定時退勤推奨を行う。(通年) <学部・分掌・衛生委員会> ②不祥事防止研修会を2回行うとともに日頃からの注意喚起を行う。(9月、12月) <衛生委員会>	①必要性の有無を確認したうえで、働き方改革の意識づけができたか。 ②不祥事根絶に向けた教職員の意識付けができたか。	<不祥事防止の意識づけはできた> ①ふれあいデーの定時退勤を推奨するための掲示物や放送等を活用し管理職が率先して行っている。 ②ミニ研修会を4回実施できた。また機会あるごとに呼びかけを行っている。	A

学校関係者評価	
実施日	令和3年2月25日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的、対話的な学びは、これから子供達が生活をしていく上でとても大切で必要な能力を上げることに繋がる。 ・外部非常勤講師との協議・実践活動について、年間24回という十分な時間をとり、ASDの特性に即した支援・指導を実践的に学べる機会を学校として十分に保障してきた努力がうかがえる。また、これらの実践を次年度にも継続し実績を積み上げるといった試みにも共感できる。 ・ASDについての理解を深める研修を進めると共に他の障害等についての研修もお願いしたい。 ・感染症防止に努めなければならない事態にありながらも、オンラインを活用して、互いの負担を減らしながら地域交流を試みた努力には大変感服するところである。高校との連絡協議会、困難事例に対する地域機関との連絡などにも活用可能であると期待する。 ・巡回相談が163件実施できたことは素晴らしいことである。それだけ必要とされ、頼りにされている証だと思う。 ・特別支援学校における災害時の対応の充実を推進してほしい。 ・教員の業務は年々増加しており、教員自身の無理のない働き方を推進しQOLを高めていくことは、インクルーシブ社会の推進をする立場を担う者としても重要な取り組みであると思われる。オンラインでの会議などを取り入れて行くことを推進してもらいたい。 	

